



学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」を学校全体で育成していくことは、これからの社会を生きていく児童生徒にとって重要なことです。今回の通信では、「情報活用能力」についての資料や実践を紹介します。

「情報活用能力」とは、どのような資質・能力？

情報活用能力は、言語能力等と並び、学習の基盤となる資質・能力の一つです。文部科学省「情報活用能力の育成」では、情報活用能力の要素を下のように例示するとともに、それを育成するための各教科等で行う学習内容を4つに整理しています。学校全体で発達段階に合わせて計画的に育成していくことが重要です。

情報活用能力を育成することで、①各教科等でICTを適切に活用した活動の充実→②育まれた情報活用能力を各教科等で発揮→③主体的・対話的で深い学びの実現へつながることが期待されます。

情報活用能力の要素

知識及び技能	1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解 3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解
思考力・判断力・表現力等	1 問題解決・探究における情報を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)
学びに向かう力・人間性等	1 問題解決・探究における情報活用の態度 2 情報モラル・情報セキュリティなどについての態度

各教科等の特質に応じて想定される学習内容

- 基本的な操作等(キーボード入力、インターネット検索等)
- 問題解決・探究における情報活用
- プログラミング
- 情報モラル・情報セキュリティ

※キーボード入力については、「けいちくGIGA通信No.4」を参照

もし、情報技術(キーボード入力やコンピュータの使い方等)、情報モラルを指導していなければ...

- 児童生徒のキーボード入力速度等の格差につながる。
- 全国学力学習状況調査のCBT化(コンピュータを用いたテスト)への対応が難しくなる。
- ※令和5年度よりMEXCBT(メクビット)を用いて中学校外国語「話すこと」がCBTで実施されます。
- 誤った情報発信へつながる危険性がある。
- 端末の持ち帰りで誤った使い方をする不安がある。



文部科学省「学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成」をチェック！(体系表例も掲載)



「情報活用能力」は、どのように育成するの？

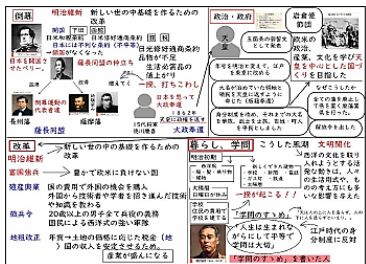
問題解決の場面でICTを活用します。そのことで、従来よりも効率的に情報の収集、整理・分析、まとめ・表現ができ、情報を活用する力を育成できるとともに、各教科等の資質・能力の育成へとつながっていきます。苅田町立白川小学校、新津中学校の実践を紹介します。(MetaMojiを活用しています)

白川小学校 6年社会

歴史人物等の働き等をとらえるために、調べた出来事や人物のつながりについて、図や言葉を使ってまとめたシートを作成し、交流します。交流後、考えたことがより伝わりやすくなるように、シートを付加・修正します。



収集した情報を整理



新津中学校 2年美術

学校をよりよくしていくため、自校の課題について、それぞれの考えをデジタル付箋に書き出します。その後、グループで4つの観点からマトリクスに整理し、考えを交流します。交流を通して考えたことを生かし、自分がピクトグラムで伝えたいことやデザインを考えます。



グループで情報を整理し、活用

